

産地における事業継承 と 倉敷ファッションセンターの取り組み

一般社団法人倉敷ファッションセンター

- 1 | 三備産地におけるサプライチェーンの概況
- 2 | (一社) 倉敷ファッションセンターについて
- 3 | 産地における事業継承の事例
- 4 | (一社) 倉敷ファッションセンターの取り組み

01

三備産地におけるサプライチェーンの概況

1 三備産地におけるサプライチェーンの概況

三備(岡山県,広島県)産地には、「テキスタイル」及び「ガーメント」企業が集積

～ 繊維のものづくりに関するすべての機能を有する繊維総合産地 ～

当産地のサプライチェーン（製造工程と該当する当産地内企業）

ジーンズ用リエキストより抜粋

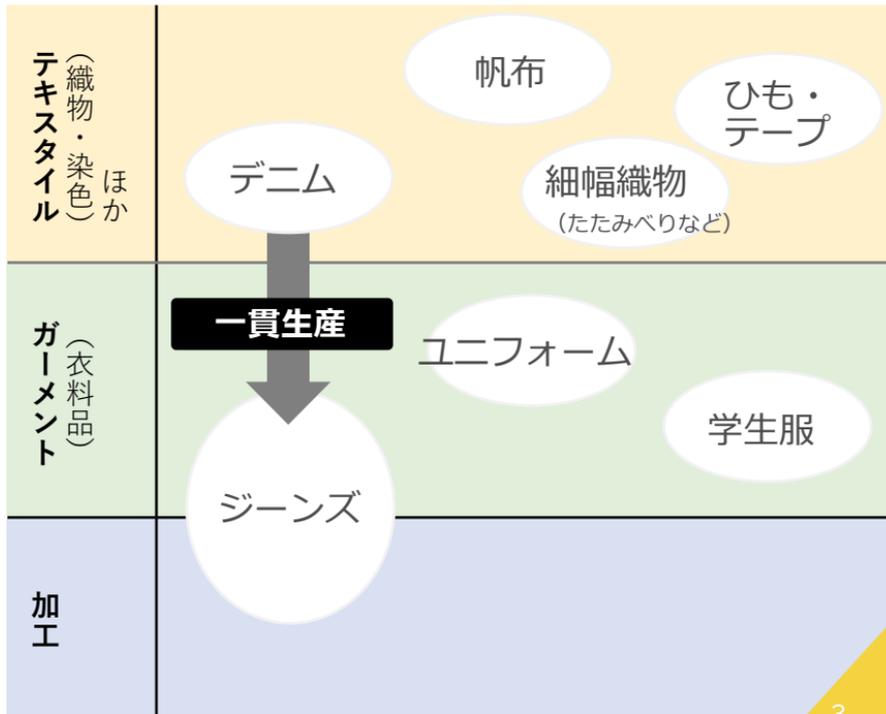
		織物							アパレル・縫製								加工			
		A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	
テキスタイル (織物・染色)ほか	紡績	綿(開張・戻打綿)	●																	
		粘綿	●																	
		綿糸	●																	
	染色(先染)	精紡(粗紡・精紡・巻き上げ)	●	●	●	●														
		染色(ローブ染色等先染)	●	●	●	●														
	製織	分梳	●	●	●	●														
		織付	●	●	●	●														
	染色(後染)	精通し(へ染し)	●	●	●	●														
		製織(シヤトル織機等)	●	●	●	●														
	整理加工	精練・染色(生地染)							●											
毛焼き		●	●																	
斜内防止		●	●																	
		防縮	●	●																
		ほか	●	●																

		織物							アパレル・縫製								加工			
		A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	
ガーメント (衣料品)	商品企画	デザイン							●											●
		MD								●										●
	設計・試作	原型(パターンメイキング)								●										○
		試作(サンプル)								●										○
	【生産管理】	アウターメイキング(サイズ展開)								●										○
		縫製(台車)																		●
	縫製準備	【生産管理】																		●
		マーキング(原反へ型入れ)								●										●
		返反								●										●
	縫製	裁断								●										●
パーツ縫製									●										●	
組立縫製									●										●	
		特殊(リベット、かんどめ等)							●										●	
		仕上げ(ラベル取り付など)																	●	

【製品としてはここで完成】 ※一部商品には価値付与のため、以下の加工を施すことがある

		織物							アパレル・縫製								加工			
		A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	
加工	前工程	こすり加工(ヒゲ加工、シュービング等)																		●
		レーザー加工																		●
		ほか																	●	
	洗い工程	ワンウォッシュ																		●
		スチームウォッシュ																		●
			バイウォッシュ																	●
後工程	製品染め																		●	
	ほか																		●	
		ソービング																	●	
		仕上げ(ラベル取り付など)																	●	

主要な製品



1 三備産地におけるサプライチェーンの概況

01

織・染・縫 の工程分野ごとにそのサプライチェーンは産地内で完結



ジーンズ

織・染 ～ 縫 ～ 加工
(デニム)



学生服

縫製
(織・染は産地外)

02

産地内の大規模企業は、社内にすべての工程を保有している



大規模企業

全ての工程が社内で完結



中規模企業

主要な工程のみ
社内に有している



小規模企業

ある特定の工程のみ
担っている

02

(一社) 倉敷ファッションセンターについて

HISTORY

1993年に繊維リソースセンター「倉敷ファッションセンター株式会社」として設立、

30年間にわたり、人材育成、販路開拓、発信など繊維産業の活性化に取り組む。

更なる事業発展を目指し、

2023年、より公共性の強い「一般社団法人」へと法人形態を変更。

一般社団法人倉敷ファッションセンターへ

2 一般社団法人倉敷ファッションセンターについて

- 産地が一体となり共通課題を解決し、更なる成長を目指す（中小企業個社の努力だけでは不足）
- これまでも今後も、第3セクターとして官民一体となった活動を重視
- 産地内の各工程分野（織・染・縫）を横断的に支援し、業界の連携を促進
- 繊維リソースセンターほか全国の繊維産地と連携を図る

倉敷ファッションセンター（株）

株主
中小機構
岡山県
倉敷市
業界企業(県内外)



（一社）倉敷ファッションセンター

（2024年11月現在）

社員（正会員）	賛助会員
岡山県	繊維関連企業 (岡山県内)
倉敷市	
井原市	
玉野市	
高梁市	
各業界団体(アパレル, 織物, 染色)	

◆ 三備産地(岡山県・広島県)全域を対象に活動

◆ 現在は岡山県内を対象とするが、実質的に三備産地全体を対象に活動

03

産地における事業継承の事例

事業継承について当社が見聞きした事例

A 当社の株主企業より

ジーンズ加工の後工程を担っていたが廃業を決断。取引先である同業界の前工程を担う企業への事業譲渡が成立。業界としてもサプライチェーン断絶を回避。継承企業も社内で一貫生産体制を確立。

B 当組合の組合員より

コロナ禍で売上減少により廃業を決断。不動産継承先は独自に見つけた。従業員の継承先について組合に照会あった。組合で他の会員へ照会、興味を示した企業を紹介。

- ➔ 経営悪化の早い段階から相談があれば支援はよりスムーズ。一方、当社（支援機関）は経営相談についてのノウハウ無く苦手。

C 地元自治体を通じて、金融機関より

縫製企業の継承先紹介依頼があった。関連する服種の製造企業を紹介したが、条件が合わずまとまらなかった

- ➔ 継承可否の判断基準は企業により様々。経緯及び結果について情報共有できれば支援機関としてノウハウ蓄積可能。

D 廃業検討企業の情報が漏れ聞こえ

廃業するらしいとの情報が漏れ聞こえていた案件について後日、同業界の企業より不満を聞いた。

- 「情報を得た時点では交渉余地無かったが、従業員、設備ほかの継承をしたかった」
- ➔ 同業界であっても金銭的課題が優先され、業界のその後については優先度が劣る。支援機関などへ相談があれば、第三者として業界目線での提案も可能では。

E 新聞報道から

アパレル企業が後継者不足などを理由にファンド等への事業譲渡を行ったとの情報を得た。継承企業の判断基準が「ブランド価値」の場合、製造業への理解不足により継続不能の事例あり。

- ➔ 継承企業には事業の継続を可能とする知識・資源が求められる

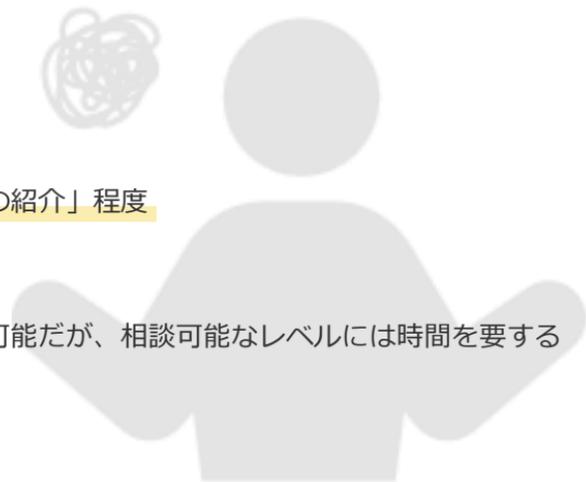
F 地元議員を通じて

廃業企業の生産設備継承先紹介の依頼があった。経営者の死去後、親族は事業を継承せず廃業を選択したが、貴重な旧式機器を業界で活用して欲しい。同業企業へ照会したが、素人目には同型機でも完全に同型でなければ利用は困難とのこと。

- ➔ 継承の可否判断には専門的知識が必要

事業継承事例から顕在化した課題

- ◆ 事業継続・廃業に関わらず、当事者の金銭的面が優先、業界のサプライチェーンについては優先度が劣る
- ◆ 支援機関は、第三者として業界目線での提案が可能
- ◆ 継承可否の判断基準は企業により様々だが、判断には専門的知識が必要
- ◆ 加えて、継承企業には 事業の継続を可能とする知識・資源も求められる
- ◆ 同様に、支援機関にも継承及び事業に関する専門的知識が必要
- ◆ 組合や事業実施を中心とする支援機関では、事業継承に関し可能な支援は「関係者の紹介」程度
また経営相談についてはノウハウが無く苦手
- ◆ 他の支援機関による支援の経緯及び結果について情報共有されればノウハウの蓄積可能だが、相談可能なレベルには時間を要する
- ◆ 相談内容により、専門分野ごとに知見を有する複数の支援機関の連携が必要
- ◆ 事業継承について、早期段階から相談があれば支援はよりスムーズ



必要な視点

- 当事者の金銭面を優先するか？
- 産地のサプライチェーン維持を優先するか？



当事者の立場に立てば、
一概にどちらが正しいとは言い切れない。

まずは、業界関係者全員に、
「(自身の属する)産地についての認識」が必要

誰が支援を行うか

- 事業継続したい しかし後継者がいない
- 事業継続が困難で、廃業を検討している
- 経営状況が悪化しているが、改善し継続したい



個々の企業の置かれた状況により、必要な支援も異なる
最適な支援を行わなければ、意図しない結果を迎える可能性有り
状況や段階に応じた支援を最適に行えるのは、それぞれ誰か？整理と共有が必要

・・・業界団体、民間の支援企業、(公的)支援機関、行政、金融機関など

また支援機関同士の連携も必要



04

(一社) 倉敷ファッションセンターの取り組み

会社紹介リーフレット

一般社団法人 倉敷ファッションセンター

Kurashiki Fashion Center Association

建物、景色からアパレルまで揃った国内有数の繊維産業振興を目的として

法人概要

名 稱 一般社団法人倉敷ファッションセンター
 Kurashiki Fashion Center Association
 目 的 一般消費者から企業・団体まで幅広い層のファッションに関心のある事業者を幅広く取り入れ、
 21世紀繊維産業の発展と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
 会 員 数 46名(2023年3月現在)
 所在地 〒711-0931 岡山県倉敷市東区1-46
 〒 電 話 086-474-4802 F 電 話 086-474-4801
 Eメール info@kfc.com URL http://kfc.com

沿革

1993年7月 倉敷ファッションセンター(株)設立
 2002年7月 一般社団法人倉敷ファッションセンター設立
 2012年7月 倉敷ファッションセンター(株)組織
 2023年4月 一般社団法人倉敷ファッションセンター事業開始

会 員 数

「産地」は、この地域の中で繊維産業を営むことで、良質な産地であり、おかげで大きな発展を遂げています。
 産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、
 産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、
 産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、
 産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、

会 員 の 内 容

【正会員】 ①個人(法人)の目的とする産地の繊維産業振興を目的とする個人、団体、企業
 【賛助会員】 ②個人(法人)の目的とする産地の繊維産業振興を目的とする個人、団体、企業
 ③産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、
 産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、
 産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、
 産地を守る産地へは「産地」のみ、倉敷ファッションセンターへは「産地」のみ、

一般社団法人 倉敷ファッションセンター

〒711-0931 岡山県倉敷市東区1-46
 〒 電 話 086-474-4802 F 電 話 086-474-4801
 Eメール info@kfc.com URL http://kfc.com



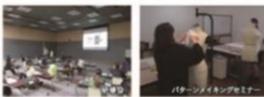
倉敷ファッションセンターに地元繊維産業に関わる人々が集い 共に産地の未来を築いていきます

1993年 倉敷ファッションセンター株式会社 設立 → 2023年 一般社団法人 倉敷ファッションセンターへ

高い公共性を持つ組織 同じ目的を有する人々が集まる場

産地の人を育てたい

活動1 産地の繊維教育
織 育



産地を発信したい

活動2 産地の技術を伝え継ぐ
織 維 マ イ ス ト ー



産地製品の良さを伝えたい

活動3 デニム・ジーンズのプロ養成
ジ ーンズ ノ ム リ エ



産地に人を惹き付けたい

活動4 産地と学生を結ぶ
織 博 (実行委員会)



他、さまざまな事業を実施!

繊維産地を守り、未来へとつなぐ活動

※入会のお申し込みは裏表紙をご覧ください。

新たな事業の企画・実施ほか産地の活性化に積極的にご参加いただける会員を募集します。

理事長ごあいさつ

私たちの繊維産地は、今から約400年前の織元づくりを起源に、時代と共に新たな製品を求めながらも、織物、染色そして縫製による最終製品作りを通じて、産地のものづくりに関わるすべての職能を有する、国内数の繊維産地へと発展してきました。
 その一方で、中小企業に多い産地が形成されている業界特性上、産地の努力だけでは更なる成長に多くのハードルがあるのが実情です。そこで、官民一線と取り93年に倉敷ファッションセンター株式会社を設立し、これまで30年間にわたり岡山県の地元繊維産業の活性化に取り組みで参りました。
 この度、倉敷ファッションセンターの事業をさらに発展させるため、より公益性の高い一般社団法人へと法人形態を変更することいたしました。
 縫製のみならず織物、染色の企業界が「原料・縫製・行状」と連携、協力を進めて、産地の振興と発展のための一翼を多分々が担うことができれば幸いです。
 今後、業界の発展のために活動して参りますので、共に取り組んで頂ける方にはぜひ響ってご入会願いますようお願い致します。



理事長 河合 秀文

ごあいさつ

本市の繊維産業は、地域の経済や雇用面で重要な役割を持っており、産地、消費者を中心に、生産、デザイン、作業などの主要な産地として全国に知られています。県として、重要な産地である繊維産業の振興に努めており、デニムの海外販路開拓の支援や、ファッションの市場フランス・パリにあるファッション専門校と連携した取組など、国内外に向けてデニムの魅力を発信するとともに、さらなる岡山県産ファッション産業として、新製品の開発など支援して参ります。
 新しい事業に挑戦していく倉敷ファッションセンターや会員の皆さまと共に、産地のブランド化や技術開発、人材育成、海外市場への展開など全国に誇る産地の繊維産業のさらなる活性化に取り組んでまいります。



岡山県知事 伊原 隆太

本市の繊維産業の歴史は約400年前、国内産地を平野に綿花を植えたことからはじまります。江戸時代は美濃、福地時代は足尾、伊豆郡・美濃、大正時代は足尾、昭和、平成時代は作楽郡・津山、綿花栽培は多彩な織物産地へとつながりました。そして現在、「日本の繊維産地」の中心となり、その発展のストーリーは「日本産地」に刻まれています。
 これからも本市の繊維産地が発展していくためには、行政と民間が「倉敷ファッションセンター」の役割が期待されています。産地、法人や会員の皆様とともに、次世代に誇れる産地や育成、国内外への販路拡大や情報発信など、産地の競争力や活力の向上を図ってまいります。



倉敷市長 伊原 香織



繊維産業人材育成事業（織育）

- 外部講師を招聘し、品質管理研修やブランディング研修、繊維マイスター養成講座ほか繊維関連に特化し実施
- 実施主体は（一社）倉敷ファッションセンター。行政（倉敷市、岡山県）が事業費の一部を負担（補助金）
- 令和5年度は開催日数 68日、参加人数 868名（延べ）



産地の目指す将来像

- 細分化されたものづくりの工程における技術・技能を次世代に繋ぐ
- 繊維業界に必要な知識や技能を習得できる環境が整備されている



ギャップ



産地の現状

- 中小・零細事業者が多く、各社に必ずしも体系的・計画的な人材育成制度が用意されていない
- 人材育成の必要性は理解しているが、多岐に渡る職種の社員研修を用意するリソースが不足

体系的かつ計画的な人材育成の場を用意

- 産地全体として専門的知識を有する人材の育成を支援
- 若手職人を繊維マイスターの技能水準に育成するための技能習得を支援
- 業界での就業を目指す人材の育成を支援





ジーンズソムリエ事業

- 当産地で製造されたジーンズ製品の「付加価値」を消費者に伝達可能な専門家を育成
- 分業による製造工程について一貫して学べるテキストを作成
- 全国で認定試験を実施し、合格者をジーンズソムリエとして認定
- 運営主体は、(一社) 倉敷ファッションセンターおよび岡山県アパレル工業組合
- これまでに3, 830名を認定(第11回終了時点、2024年11月現在)



国内市場の縮小、産地の空洞化…



事業所数、従業者数、出荷額等 **減少** ↓↓

岡山デニム・ジーンズ市場拡大 支援策

- ◆ デニム製品に関する事項を取りまとめたテキストの制作
- ◆ 研修会の実施
- ◆ ジーンズソムリエ資格認定制度の設立



01 一連の事業を体系的に実施 ⇨ 対象者が目的意識を持つ

人材育成 : より良いデニム・ジーンズ文化の普及

02 「高付加価値デニム商品」とは何か、
「岡山が国内有数の集積地」であることを、
消費者と直接接する「販売員」に対し強くPR

基盤構築 — 高付加価値デニム製品の持つ「魅力」を
広く一般消費者に周知

➡ デニム・ジーンズ製品の販売促進や販路拡大



繊維マイスター制度

- 繊維産業の競争力の源泉である「技能」を次世代に承継するため、産地が求める技能を可視化。国の技能検定を活用。同制度に定めがない検定を新設。
- 業界で定めた技能水準を満たす担い手を「繊維マイスター」に認定（伝承者:マイスター、継承者:プレマイスター）
- 運営主体は、(一社)倉敷ファッションセンター
岡山県アパレル工業組合など、県内の産業支援機関で構成される「繊維マイスター制度運用委員会」「同審査会」を組織
- これまでに、縫製やパターンメイキング、染色、ジーンズ加工などの分野で129人を認定（2024年11月現在）

既存の検定制度

国の技能検定制度

職業能力開発促進法に基づく国家検定制度
技能検定に準じる検定制度
 日本綿業技術・経済研究所の検定制度

独自の検定制度

- | | | |
|------------|--------|---------|
| ○ 製品分野— | ジーンズ縫製 | (1級・2級) |
| ○ 素材分野— | 製織 | (1級・2級) |
| ○ 染色・加工分野— | 染色 | (1級・2級) |
| | ジーンズ加工 | (1級・2級) |



- ◆ 基幹産業である繊維産業の各分野の「技能水準」を可視化
- ◆ 各分野の技能を次世代の担い手に承継
- ◆ 製品付加価値向上・担い手の地位向上・担い手確保
- ◆ 情報発信と産地ブランド化の促進

織博 ～SEN-I EXPO～ (倉敷ファッションフロンティア)

- 産地企業の認知向上と次世代の担い手確保を目的に、服飾系専門学生他をターゲットに産地ツアーイベント「織博」を開催
- ファッションデザインコンテスト事業から産地・企業紹介による人材確保事業へ転換
- 繊維産地ツアーを中心に、企画から製造まで全ての機能を有する産地特性を発信
- 企業へのインターンシップにつながる「学生ピッチコンテスト」を実施
- 担い手(人)にフォーカスを当てた企業紹介冊子「LOCAL CREATORS BOOK」を制作し、全国350校の服飾系専門学校に案内
- 実施主体は岡山県、倉敷市、(一社)倉敷ファッションセンターほかで構成される「倉敷ファッションフロンティア実行委員会」



どんな繊維企業があるの？
リアルな現場、
働く人の声を知りたい！



自社の知名度をあげたい。
次世代を担う人材を確保したい！

交流会



繊維産地ツアー



企業紹介BOOK



企業紹介SNS



学生ピッチコンテスト



オンライン繊維産地ツアー



デニム・ジーンズ産地連携創業者支援事業

- ジーンズ関連の創業希望者、縫製工就業希望者等を技術面から支援、地域の創業促進、産地の人材確保実現を目指す
- 受講者は全国より、創業後間もない方、創業を目指す方のほか、縫製職希望者、復職希望者など、一般から学生まで広く対象
- 主体は倉敷市・井原市、実施は（一社）倉敷ファッションセンター

産地の課題

縫製工が不足

→ ものづくり人材を確保したい

地域の事業所数減少

→ 創業を増やしたい

ジーンズ縫製実践講座

「生地からジーンズ製作」までを実技指導

- ◆ ジーンズの製造工程の理解
- ◆ 縫製技術の習得

製造工場の見学

- ◆ 生地、縫製、加工の各工程を理解
※ジーンズソムリエテキストを活用
- ◆ 経営者より、起業・経営のノウハウを吸収

創業後

オフィス等サポート体制

倉敷市児島産業振興センター内

デザイナーズ
インキュベーション(DI)

倉敷ファッションセンター内

コワーキングスペース
Co-Creation倉敷児島





岡山繊維産地協議会

- 岡山繊維産地協議会は、県内の川上から川下まで繊維産業に携わる企業や団体、行政ほかが集い、産地の現状や課題、解決策の方向性等を議論する場として岡山県が設立。
- 今後 行政が取り組むべきこと、企業同士の連携で取り組めることなど、議論の上実行し、**産地の更なる活性化**につなげることが目的
- 実施主体は岡山県。(一社) 倉敷ファッションセンターが実施を受託

会員

岡山県、倉敷市、井原市、玉野市、岡山県アパレル工業組合ほか業界団体、繊維関連企業約90社

● 2023年10月設立 (全体会議)

【講演】
経産省 田上生活製品課長
「繊維ビジョン2022」



● 2024年6月 (検討会議)

特定技能による外国人採用
【講演】
経産省 田上生活製品課長
織産連 富吉副会長



3つの検討会議 (分科会)

人材確保のため
産地PR
検討委員会

クリーンで持続可能な産地を目指して

特定技能による
外国人採用
検討委員会

倉敷ファッションセンター発
外国人採用推進事業

金融
検討会議

地域の金融機関として何ができるか
つくり手とつかい手の橋渡し役
つなぎ手として

まとめ

- ◆ 業界および行政と連携し事業を実施
- ◆ 産地内の全地域・全業種で連携し事業を実施
- ◆ 約10年前より人手不足が課題となり人材確保の取組を開始
- ◆ 従業員及び経営者の両面で人材確保を実施
- ◆ 産地（産業＋地域）発展のため、業界のみならず地域発展の取組を開始

